

## 2 発育段階別分布生態

### 1) 発育段階別水平垂直分布

昭和45年度から47年度にかけて、中城湾、金武湾の水深9~50mの全海域で底曳網による調査を実施したが、ハマフエフキの幼魚の漁獲はみられなかった。また48年度、泡瀬内海の水深2~10m、及び金武湾の水深5~10mの海域で曳網したが、金武湾の天願川河口域でシモフリフエフキを2尾(FL 3.15~3.45mm)漁獲しただけで、ハマフエフキ幼魚の漁獲はなかった。

建干網の漁獲物調査及び聞き取り調査結果からみると、図-14に示すように、水深1~3mのサンゴ裾礁内海域に分布することが明らかになっており、それ以深での分布は殆んどないものと推定される。漁獲物調査、及び聞き取り調査から当才魚の出現時期をみると、南風原の建干網9月以降、知念村志喜屋11月、石川の刺網10月、建干網12月であった。また、8月29日に体長55mmの幼魚が泡瀬南で罾網に入網していることからすると、9月以降に建干網への入網がみられるのは漁具の選択性によるものと推定される。

1才魚以上の成魚については、延縄による漁獲試験結果から体長別の水平垂直分布をはば明らかにすることができた。

図-13に使用した資料は、1~5月の延縄漁獲試験結果によって得られた40個体を水深別にプロットしたものである。(水深5m以浅海域の資料は建干網漁獲物)

この結果からみると、当才魚から1才魚までは水深5m以浅のサンゴ裾礁内海域に主分布域を形成し、体長22cm以上に成長すると、離岸し水深15~20m海域へ移動し生活領域を拡大する。体長22cm以上46cm未満の成魚の分布域はかなり広く、水深15~56mまでみられるが、主分布域は水深15mから30m海域である。またこの図からわかるように体長と生息水深の関係は正の相関を示すようである。体長35cm以上の成魚は、水深30~35m海域で親魚分布海域と混合する。親魚の生息水深は30mから90mであるが、水深70~90m海域に分布がみられるのは、越冬移動のためであり、主分布域は30mから50mである。

図-13 体長と生息水深の関係

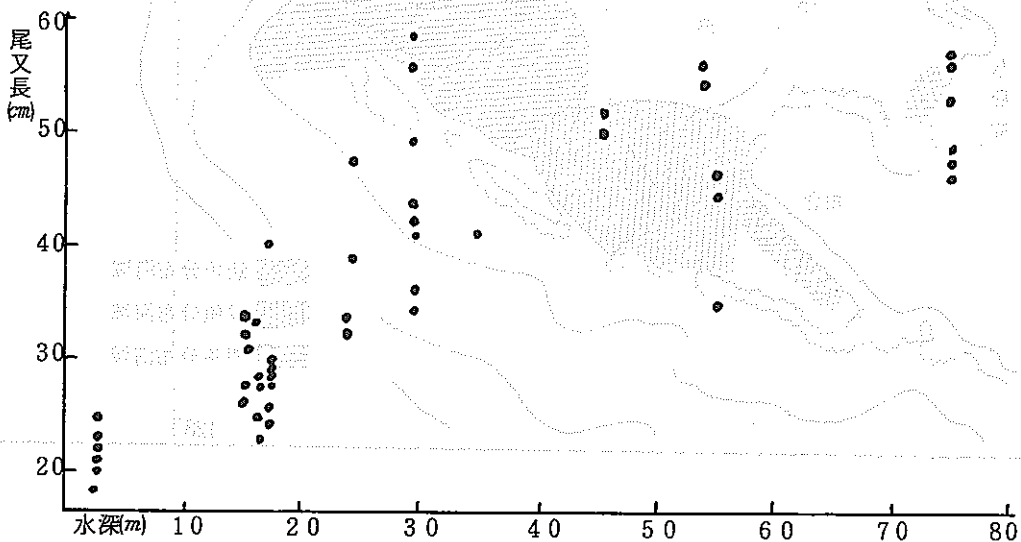


図-14 ハマフェエフィの发育段階別分布図

本誌に掲載の図表は、原則として、読者の便を考慮し、複製して用いることができるものと見做す。

